

布の持つ「ぬくもり」や「優しさ」を伝えたい

ピアノ教師として音楽を教える傍ら、市図書館協議会会長を務める山本さん。幼稚園などで子どもたちへの読み聞かせを続けながら、布絵本などのバリアフリー作品を手掛け、触つて楽しめる本の普及に努めています。

【布絵本との出会い】

わが子に絵本を読み聞かせる時間を大切にしていた山本さん。そんな子育て中、障害のある子も楽しめる布絵本の存在を知り、すぐに「触つて遊べる」その魅力に惹き付けられたそうです。

しかし、当時の布絵本は、購入しようとしても種類が少なく高価。「自分の手で作りたい」という思いはあっても、時間や情報も足りなくて、一步を踏み出せずにいました」と山本さんはその頃を振り返ります。「仕事と育児の両立は難しく、子どもが成長してゆとりができるまでは、布

絵本への思いは心に留めておくことにしました」

昨年12月、布絵本との再会は突然やってきました。市図書館協議会会長として参加した静岡福祉大学との相互協力協定で、布絵本を目にし



バリアフリー布絵本作家
山本敬子さん（島田市本通）

聞かせに訪れている幼稚園から「手指の動作を自然に学べるような布の遊具が欲しい」とリクエストを受けた山本さん。ボタンやマジックテープで絵が着脱できたり、音が出たりするなど、楽しい仕掛け

たのです。布に触れると、かつての感動がよみがえり、山本さんの創作意欲は再燃していきました。

【好奇心を刺激する仕掛け】
創作を再開してすぐ、読み

を施した作品を園児たちにプレゼントしました。「子どもたちは、好奇心も発想力も豊か。布の手触りを楽しみながら、遊び・学んでほしいですね」と子どもたちを優しく見守ります。

【新しい世界への扉】

現在はピアノ教室の子ども向けに、フェルトの音符を音楽に合わせて動かし、音階やリズムを楽しく覚える絵本を創作中です。「アイデアを早く形にしたくて、作り始めると止まらなくなるんです。色合わせや素材選びをしながら、子どもたちの反応を想像すると楽しくて、こちらまで笑みがこぼれます」

今年1月には、同大学のバリアフリー文庫に、遊べるタペストリーなどを寄贈。高齢者や障害者のリハビリに役立ててもらいたいとの思いから、これらの作品は誰でも借りることができます。また、一人でも多くの人に布絵本の魅力に触れてもらうため、今秋からは、大学生に作り方を教えます。

「布の温かさや優しさは、紙の絵本とは違う発想力を育んでくれるはず。新しい世界への扉が、作品に触れることで開けばうれいすね」
布のような柔らかな愛情で子どもたちを包み込む山本さんの創作活動は、これからも続きます。



読み聞かせ会で、子どもたちと手袋人形で遊ぶ山本さん

Shimadajin File #59

しまだじん